



## 2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月13日

上場会社名 株式会社 竹内製作所 上場取引所 東  
 コード番号 6432 URL <https://www.takeuchi-mfg.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹内 敏也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長兼総務部長 (氏名) 小林 修 TEL 0268-81-1200  
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	106,902	30.2	14,160	41.0	14,398	43.3	10,618	45.3
2021年2月期第3四半期	82,087	△10.3	10,039	△6.1	10,044	△3.8	7,308	△3.4

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 12,918百万円 (101.3%) 2021年2月期第3四半期 6,416百万円 (△2.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	222.67	—
2021年2月期第3四半期	153.27	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	133,857	100,296	74.9
2021年2月期	115,525	89,908	77.8

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 100,296百万円 2021年2月期 89,908百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	53.00	53.00
2022年2月期	—	0.00	—	—	—
2022年2月期（予想）	—	—	—	68.00	68.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

### 3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	140,000	24.7	16,700	26.4	17,000	27.8	12,500	28.0	262.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	48,999,000株	2021年2月期	48,999,000株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	1,312,862株	2021年2月期	1,312,841株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	47,686,148株	2021年2月期3Q	47,686,202株

（注）期末自己株式数には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式（2021年2月期 58,940株 2022年2月期3Q 58,940株）を自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループの主力市場である米国及び欧州の当第3四半期連結累計期間（2021年3月1日から2021年11月30日まで）の経済は、概ね以下のとおり推移しました。米国では、新型コロナウイルス対策として政府により実施された現金給付やワクチン接種の進展を背景として、個人消費が引き続き増加しました。住宅市場においては、ウッドショックや人手不足が住宅工事に影響を与えたものの、住宅需要そのものは力強さを維持しました。設備投資においても、規制措置の緩和や経済対策が追い風となり、堅調に推移しました。欧州では、国によって新規感染者の抑制に差が生じており、行動制限が解除に至った国では、個人消費が大きく回復しました。設備投資においては、好調な企業業績を背景として増加基調となりました。11月下旬には新型コロナウイルスの変異種「オミクロン株」の出現により、またも感染拡大が懸念される事態となり、蔓延防止と経済活動との両立を模索しながらの一進一退の状況が続いております。

このような環境下にあっても、欧米では水道管やガス管等の生活インフラの公共事業が引き続き活況で、特に米国では新築・増改築や庭整備等の住宅関連工事が各地で盛んに行われており、製品需要は好調に推移しました。また、当社グループは、2021年2月にはミニショベル「TB325R」を、2021年7月にはリチウムイオン電池式ミニショベル「TB20e」を市場投入するなど、より地球環境に優しい製品を加えた豊富なラインナップで積極的な販売活動を展開しました。この結果、ミニショベル、油圧ショベル及びクローラーローダーの当第3四半期連結累計期間の販売台数は、新型コロナウイルスの影響で販売が後退した前年同期に比べて、大きく増加しました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,069億2百万円（前年同期比30.2%増）となりました。利益面につきましては、製造コストの上昇、運搬費及び製品保証引当金繰入額の増加等の減益要因はあったものの、売上高の増加及び製品販売価格の値上げ等により、営業利益は141億6千万円（同41.0%増）となり、経常利益は143億9千8百万円（同43.3%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用を37億8千万円計上したことにより、106億1千8百万円（同45.3%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

（日本）

日本セグメントは、売上高のほとんどが欧州ディストリビューター向けの販売で占められております。新型コロナウイルスの影響で販売が後退した前年同期に比べて、生活インフラ等の公共工事での需要を中心に、欧州ディストリビューター向けのミニショベル及び油圧ショベルの販売台数は大きく増加し、売上高は371億2千1百万円（前年同期比18.1%増）となりました。セグメント利益は、製造コストの上昇、運搬費及び製品保証引当金繰入額の増加等の減益要因はあったものの、売上高の増加及び製品販売価格を引き上げたこと等により、93億7千1百万円（同69.0%増）となりました。

（米国）

生活インフラ等の公共工事での製品需要の回復のほか、米国各地で新築、増改築、庭整備といった住宅関連工事が盛んに行われており、コロナ禍の長期化による郊外での住宅需要の高まりと合わせて、好調な販売状況が続いております。当第3四半期においても港湾での物流混雑と陸上でのトラック不足の影響を受け続けたものの、新型コロナウイルスの影響で販売が後退した前年同期に比べて、米国でのミニショベル、油圧ショベル及びクローラーローダーの販売台数は大きく増加し、売上高は508億7千8百万円（前年同期比30.6%増）となりました。セグメント利益は、売上高の増加及び製品販売価格の値上げ等により、47億7千7百万円（同40.3%増）となりました。

（英国）

新型コロナウイルスの影響で販売が後退した前年同期に比べて、生活インフラ等の公共工事での需要を中心に、英国でのミニショベル及び油圧ショベルの販売台数は大きく増加しました。円安による追い風もあり、売上高は114億8千8百万円（前年同期比72.4%増）となりました。セグメント利益は、売上高の増加及び製品販売価格の値上げ等により、10億7千6百万円（同99.3%増）となりました。

（フランス）

新型コロナウイルスの影響で販売が後退した前年同期に比べて、生活インフラ等の公共工事での需要を中心に、フランスでのミニショベル及び油圧ショベルの販売台数は大きく増加しました。円安による追い風もあり、売上高は73億5千9百万円（前年同期比47.1%増）となりました。セグメント利益は、売上高の増加及び製品販売価格の値上げ等により、5億1百万円（同51.5%増）となりました。

（中国）

日本セグメントでの建設機械の増産により、日本セグメント向けの部品販売が増加しました。この結果、売上高は5千4百万円（前年同期比82.5%増）となり、セグメント利益は9千5百万円（前年同期は1億8千5百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ183億3千2百万円増加し、1,338億5千7百万円となりました。これは主に、たな卸資産が113億5百万円、現金及び預金が53億5千1百万円、売上高の増加により受取手形及び売掛金が16億7千2百万円増加したこと等によるものです。なお、たな卸資産の増加のうち、仕掛品が60億6千2百万円増加しました。これは電子部品の供給不足が主因ですが、当該仕掛品の大部分は欧米地域で保管されており、電子部品の供給の回復に伴い、速やかに完成品として販売される状態の現地在庫です。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ79億4千4百万円増加し、335億6千1百万円となりました。これは主に、生産台数の増加等により買掛金が64億2千3百万円、未払法人税等が7億2千1百万円増加したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ103億8千8百万円増加し、1,002億9千6百万円となりました。これは主に、利益剰余金が配当金の支払により25億3千万円減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益により106億1千8百万円増加したこと、及び為替換算調整勘定が23億7百万円増加したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の通期の連結業績予想につきましては、2021年9月30日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細は、本日(2022年1月13日)公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、本業績予想における第4四半期以降の為替レートは、1米ドル=114円、1英ポンド=154.50円、1ユーロ=130円、1人民元=17.90円を前提としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	40,227	45,578
受取手形及び売掛金	27,172	28,844
商品及び製品	23,061	26,059
仕掛品	1,238	7,301
原材料及び貯蔵品	5,026	7,270
その他	3,536	3,698
貸倒引当金	△1,078	△1,173
流動資産合計	99,184	117,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,074	7,646
機械装置及び運搬具（純額）	1,836	1,599
土地	2,063	2,111
その他（純額）	843	500
有形固定資産合計	11,818	11,857
無形固定資産	732	683
投資その他の資産		
繰延税金資産	1,717	1,682
その他	2,094	2,074
貸倒引当金	△21	△21
投資その他の資産合計	3,790	3,735
固定資産合計	16,340	16,276
資産合計	115,525	133,857

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,471	25,895
未払法人税等	987	1,709
賞与引当金	375	277
製品保証引当金	1,614	1,921
その他	2,692	3,269
流動負債合計	25,142	33,073
固定負債		
役員株式給付引当金	55	65
退職給付に係る負債	62	64
その他	356	357
固定負債合計	474	487
負債合計	25,617	33,561
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,632	3,632
資本剰余金	3,631	3,631
利益剰余金	85,626	93,714
自己株式	△1,985	△1,985
株主資本合計	90,906	98,993
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10	△7
為替換算調整勘定	△994	1,313
退職給付に係る調整累計額	6	△2
その他の包括利益累計額合計	△997	1,302
純資産合計	89,908	100,296
負債純資産合計	115,525	133,857

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	82,087	106,902
売上原価	65,525	83,489
売上総利益	16,562	23,412
販売費及び一般管理費		
運搬費	2,189	4,421
製品保証引当金繰入額	614	874
貸倒引当金繰入額	△3	△0
役員報酬	204	222
給料及び手当	1,327	1,527
賞与引当金繰入額	87	102
退職給付費用	34	36
役員株式給付引当金繰入額	9	10
その他	2,058	2,057
販売費及び一般管理費合計	6,522	9,252
営業利益	10,039	14,160
営業外収益		
受取利息	52	30
為替差益	—	78
補助金収入	—	77
その他	189	67
営業外収益合計	242	253
営業外費用		
固定資産除却損	26	15
為替差損	190	—
その他	20	0
営業外費用合計	237	15
経常利益	10,044	14,398
税金等調整前四半期純利益	10,044	14,398
法人税、住民税及び事業税	2,390	3,691
法人税等調整額	345	89
法人税等合計	2,736	3,780
四半期純利益	7,308	10,618
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,308	10,618



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	7,308	10,618
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	2
為替換算調整勘定	△888	2,307
退職給付に係る調整額	△1	△9
その他の包括利益合計	△891	2,300
四半期包括利益	6,416	12,918
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,416	12,918
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間（自2020年3月1日 至2020年11月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	英国	フランス	中国			
売上高								
外部顧客への 売上高	31,432	38,960	6,663	5,001	29	82,087	—	82,087
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	36,107	—	149	5	1,171	37,434	△37,434	—
計	67,539	38,960	6,812	5,007	1,201	119,522	△37,434	82,087
セグメント 利益又は損失 (△)	5,545	3,405	539	331	△185	9,636	403	10,039

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額403百万円には、セグメント間取引消去1,307百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△904百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第3四半期連結累計期間（自2021年3月1日 至2021年11月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	英国	フランス	中国			
売上高								
外部顧客への 売上高	37,121	50,878	11,488	7,359	54	106,902	—	106,902
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	53,806	0	11	4	2,220	56,044	△56,044	—
計	90,928	50,878	11,499	7,364	2,274	162,946	△56,044	106,902
セグメント 利益	9,371	4,777	1,076	501	95	15,822	△1,662	14,160

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,662百万円には、セグメント間取引消去△624百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,038百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。